平成２３年度第４回中野駅周辺まちづくり推進会議　議事要旨

１．開催概要

日時：平成２４年３月２６日（月）　午前１０時～１２時
会場：中野区議会棟第１委員会室
出席：委員３２名のうち２８名

２．質問・意見・事務局説明等

座長コメント

- ■ 3.11 から１年余り経過したが、世間の情勢は流動的で一般の方々は不安になることが多いと思う。まちづくりの方向性をはっきり示して、皆さんに安心してもらうことが非常に大事だと思っている。
- ■ Ver.3 ではこれから中野をどうしていくかという大きな方向性を提示することになると思うので、皆さんから忌憚のないご意見をいただいて、骨太な内容になっていけばいいと思っている。

委員１

- ■ 他の委員からも町会からも、まちづくりの話をすると駅ビル歓迎という話が出る。これは裏を返せば、商店街がお客様のニーズに応えられていないことの裏付けであり、反省するとともに、今後の商店街のあり方を考えていかなければならない。商店街にとって駅ビルはライバルであるが、反対するのではなく、協力し合えるように商店街連合会に入ってもらい、イベントにも積極的に参加してもらいたい。
- ■ 南口駅前広場の拡張整備や歩行者経路の確保を実施するには、地元との協議が必要である。協議して実施することは歓迎するが、同様に協議が必要な駅ビルの部分とは、ニュアンスが違うように感じる。ニュアンスの違いを説明してもらいたい。
- ➢ 区）駅前広場の整備は、中野二丁目地区市街地再開発との連携が重要と考えている。区としては南口駅前広場の整備、安全な歩行者空間の確保に向け、協力を得たいことと合わせ、協力が得られるような、土地利用等のあり方を提案していきたいと考えている。皆さんにとって、よりよいまちづくりとなるよう調整しながら、実現を図っていきたい。
- ➢ 区）ニュアンスの違いは、駅ビルについては具体的な計画がまだ示されていないためである。南口駅前広場の整備については、中野二丁目地区市街地再開発の準備組合とすでに具体的な協議に入っているので、具体的に書かせていただいた。

委員２

- ■ 行政が区民の財産や生命を守ることは賛成である。しかし、中野は消防車が通れない狭あい道路がたくさんあり、その対策は進んでいない。代替用地がないと狭あい道路の問題は解決しないので、国家公務員宿舎の建設中止による公園用地や区役所・サンプラザ地区は面的まちづくりの代替用地として使ってほしい。
- ➢ 区）確かに中野五丁目の狭あい道路の対策は進んでいない。全ての道路を拡幅することは難しいが、ボトルネックとなる箇所を優先的に進めていきたい。面的まちづくりの代替用地として公園用地を利用することは難しいが、中野三丁目のまちづくりを進めるにあたっては、桃丘小跡地を事業用地として活用し、地区の安全性を高めていきたい。
- ■ 地下が一番安全だと思うので、費用はかかるが新たな防災空間は地下につくってほしい。

委員３

- ■ 今後、桃丘小跡地などで事業が進んでいく過程において、災害時の避難場所はどうなるのか、地元の区民は不安になると思う。グランドデザインVer.３の策定後にはそういった方針も明確に示してもらいたい。
- ■ 中野駅付近では、ラッシュ時の人の往来が心配である。高齢者や障害者、ベビーカーを利用する人にとって、今後の方針が見えない不安は大きいと思うので、大勢の人が駅を利用するという視点を持って、検討を進めてもらいたい。すぐに実現できなくても方向性が見えてくれば安心できる。
- ■ 災害時の避難場所には、一時的な避難場所とその後の生活を伴う避難所がある。そういう部分にも具体的に触れてもらえるとわかりやすい。

委員４

- ■ 木造住宅密集地域は、全て建替えてしまえばいいという話ではない。危険でも住む人がいて魅力があるのも確かである。阪神大震災では町会で防災活動を懸命にやっていたところは被害が少なかったという現実もある。そこに住んでいる人たちがどうしたいかが大事で、簡単に街区再編で済まされる話ではない。地域防災計画なども意識して、もう少し丁寧に書いたほうがいいと思う。
- ■ 区民の方に読んでもらうときに、価値軸というのは受け取りにくい表現だと思う。区民の方の感覚に近いような表現にして、より伝わりやすいものにしてもらいたい。また、複数の価値軸を掲げているが、優先順位を付けるなど相互のバランスをとることも考えなくてはいけない。

委員５

- ■ 狭あい道路の対策が進まないことの根底には、建築基準法や都市計画法に

よる規制がある。この問題を解決するには、地区計画制度を利用するしかない。他区では区内全域に渡って地区計画を活用している例もある。他区の成功例を参考にして取り組んでもらいたい。

委員６

- ■ 中野三丁目は木造住宅が多い。こういった地域ではコミュニティは非常に重要だと思う。道路の拡幅や住宅の建替えで火災には強くなるが、地域のコミュニティなどきめ細かいことを考えながらまちづくりを進めてもらいたい。中野三丁目や五丁目は、まちの魅力と防災という相反する問題をどう解決するかが課題であり、そういう視点も盛り込んでもらいたい。
- ■ グランドデザイン Ver.3 では、いろいろなことを均等に満遍なく盛り込もうとして、４つの地区の魅力をどうするのかが見えなくなっている。各地区の個性を伸ばすことを考えてもらいたい。将来像の内容が東京の多くのまちに当てはまることばかりのように感じた。
- ➢ 区）行政がつくるものは総花的でつまらない、どこのまちも同じだというご意見がよくあるが、よく見ていただければどのまちも異なっていることがわかる。言葉を絞り込んでいくのは難しいので、グランドデザイン Ver.3 では価値軸を明確に打ち出し、それに基づいて全体を構成するという考え方になった。
- ■ エコユニバーサルデザインや防災ユニバーサルデザインといった概念をつくり、ユニバーサルデザインを機軸にしたまちづくりができれば素晴らしいことだと思う。中野はいろんな人が不自由さを感じないまちになると素晴らしい。
- ■ 駅ビルや区役所・サンプラザ地区は、今後の重要なポイントであり、それをつなぐ新北口駅前広場は非常に重要な位置にある。単にデッキでつなぐだけではなく、いろいろなアイデアを広く募集してもらいたい。

委員７

- ■ 高齢者の声を聞くと、歩くとすぐに疲れてしまうが、それでもまちを歩きたいという意見が多い。公園だけでなく、まちなかに腰掛けられる場所をたくさんつくってほしい。安全が確保された腰掛けられる場所がたくさんあれば、安心して外出できると話されていたので参考にしてもらいたい。

委員８

- ■ グランドデザインの価値軸とは、駅間の競争に勝ち、もっとたくさんの人に中野に来てほしいが、住環境は壊さないということではないのか。そういった点を強く打ち出したほうがいい。
- ➢ 区）中野駅周辺のまちづくりでは、もっと人をたくさん集め、まちを活性化して、なおかつ後背の住環境を壊さずに、住み続けたいまちとなること

を目指している。それはグランドデザインVer.2から変わっておらず、持続可能な中野をけん引するために必須だと考えている。

- ■ 駅ビルに生活利便性の向上を求めると、ＪＲは何をつくってもいいと思うのではないか。生活利便性が駅で満たされるのは、まちにとって良くないことだと思っている。地元商店街との機能分担を強調してもらい、駅ビルにはこれまでの中野にない別の魅力を持ってきてもらいたい。

副座長コメント

- ■ これまでのまちの魅力に加えて、安全がまちの魅力の１つになるのではないかと強く思っている。安全が全てではないが都市間競争では強い個性になる。実現に向けたステップとしては、地元の皆さんと話し合いをして、誰がどういうふうにやるのかを詰めていく必要がある。いろいろ書き込んでも行政だけでできないことは多々ある。それらは地域の方々から提案をいただいて、グランドデザインVer.3を具体化していくなかで内容を変えていってもいいと思う。グランドデザインVer.3が１つの方向性を示すきっかけとして活用されればよい。
- ■ ソフトの仕掛けは大事である。ハードの整備にあわせて、ハードをどう使うのかについて知恵を出していく必要がある。それは誰か一人が打ち出すものではなく、その方向性を感じている人々が集まることで、動いていくものだと思っている。引き続き、多くの方々が参加できる場をつくってもらいたい。

座長コメント

- ■ ハードとソフトがバランスすることが大事である。ソフトというのは行政ばかりではなく、それぞれの地域の力のようなものである。狭あい道路の問題などもあるが、地域のソフトウェアも見直さなければならない。これからはハード整備とともに地域のソフトの防災力も試されるのではないかと思っている。
- ■ 今後２０年間に何が起きるか、２０年後の社会はほとんどわからない。そのなかで将来ビジョンを描こうとするのが今回のグランドデザインVer.3である。しかし、都市計画は動的であり、情勢は途中でいろいろと変化する。その点を踏まえ、いきなり２０年後の姿ではなく、２０年間のプロセスがあると具体的でわかりやすく、区民の方もイメージしやすい。
- ■ 中野の色は「暮らし」だと思う。最先端という言葉が入ると違和感があるかもしれないが、最先端も動的である。周りで豊かな暮らしが出来る、いいまちであることが、最先端の業務拠点の条件になってくると思う。一番の近道はいいまちをつくることである。